

箱根町行財政運営を考える町民会議 平成29年度第2回会議報告書

日 時：平成29年6月23日（金曜日）14：30～17：00

場 所：箱根町役場本庁舎4階 第1～3会議室、第1・2委員会室

出席者：【箱根町行財政運営を考える町民会議】

〔委員〕

内田良雄委員、勝俣賀寿代委員、安藤雅章委員、勝又 實委員、
中村光章委員、倉田義巳委員、高橋 始委員、勝俣昭彦委員、
中里健次委員、酒寄繁基委員、高橋典之委員、勝俣昌美委員、
澤村吉之委員、杉山慎吾委員、欠席：鈴木茂男委員（代理 小
田原箱根商工会議所箱根支部中矢課長）

〔ファシリテーター・アドバイザー〕

田中 啓教授、高井 正教授、池島祥文准教授

〔町〕

對木総務部長、吉田朋正財務課長、杉本税務課長、石川観光課長
村山企画課長、伊藤企画課副課長、辻満、海野

【会議概要】

1 開会

企画課長

それでは、平成29年度第2回箱根町行財政運営を考える町民会議を開催します。会議に先立ち、資料の確認をさせていただきます。資料は事前に「会議次第」、「委員名簿」、「席次表」、「資料1 第1回箱根町行財政運営を考える町民会議の結果について」を送付していますが過不足等ございませんか。なお、この町民会議は公開で行いますのでご承知おきください。

早速ですが開会に当たり、町民会議のファシリテーターである田中教授からご挨拶をいただき、引き続き議事の進行をお願いします。

ファシリテーター

皆さんお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。町民会議は、本日で今年度第2回目になりますが、前は、ほぼ1カ月前の5月に開催しています。

この1カ月間でかなり暑くなりましたが、町民会議の議論も今回以降、佳境に入って来ますので、是非、熱い議論をお願いします。

2 議 題

(1) 町民会議の今後の進め方について

ファシリテーター

それでは早速、「議題1 観光のまちづくり、住みよいまちづくりについて」に入りたいと思います。

前回の町民会議では、昨年度の町民会議の経過やアンケート結果などを踏まえて、私から今後の町民会議の進め方について提案し、皆さんから概ね了承いただきました。

議論の進め方は、町民会議以外で行う勉強会、加えて町民会議ではテーマ別にグループに分かれての意見交換の場を設けることとしましたので、是非、委員の皆さんが主体となり深掘した議論をお願いします。

前回の振り返りになりますが、資料1は、事務局が作成したグループ別意見交換の結果概要ですが、観光と暮らしは教育、子育て等を含みますが、それぞれ現状と課題について意見交換を行い、さらに、最終的な提案に向けてどのような方向性で議論を進めるかについても部分的に意見交換を行っていただきました。

また、本日も町民会議に先立ち、午後1時から委員有志による勉強会を開催したと聞いております。

本日は、前回及び本日の勉強会の成果を踏まえて、最終的な取りまとめに向けて、それぞれのテーマの意見・提案について議論を深めていただき、さらに議論が進めば、具体的な方向性を少しでも出すことを意識して進めていただければ良いと思います。

この議論については、恐らく次回の7月14日もある程度の時間を割くことが可能だと思いますが、少なくとも半分程度は、行財政改革のテーマで議論する予定です。

その意味では、行財政改革につながる前段階の観光・暮らしについて、本日が時間をかけて議論を深められる最後の機会です。是非、活発な意見交換をお願いします。

タイムスケジュールについては、午後4時頃から全体会議を再開したいと思いますが、その際、各グループの意見交換の結果を報告していただき、さらに、全体で意見交換をしていきたいと思っています。

アドバイザーの先生もグループ別の意見交換に参加していただき、随時、助言等をお願いします。

グループ分けは、前回と同様のグループでも、別のグループ

に参加しても結構です。また、途中で別のグループに行くのも構いませんので、その辺は柔軟にお願いしたいと思います。

(グループ別の意見交換を実施 結果は、別紙のとおり)

ファシリテーター

皆さん大変お疲れ様でした。後半の全体の意見交換に移りたいと思います。それでは、観光グループ、暮らしグループの意見交換の結果について、それぞれ代表者から報告して頂きたいと思います。

委員

観光グループは、前回の意見交換で整理した今後の議論の方向性である「沢山の観光客が来る→観光産業の活性化→資産価値のUP→固定資産税収のUP→町の活性化」という好循環サイクルを作るためのアイデアについて議論しました。

地域の観光協会の実態などを踏まえて考えると、観光協会が整理した5つの課題、地域のリレーション、インバウンド領域、官民一体の仕組みなどが不足しているという中で、どのように観光が町にプラスに作用することができるか、税金の話も含めて色々議論しました。

アドバイザーからの助言も参考に、まず、シンプルに観光客を増やすことを考えて行くべきではないか、それが第1で、どのように費用をかけるかは、その後の議論で考えていくこととしました。

また、観光課長から2016年の入込観光客について、観光客が1,956万5,000人、宿泊客が約430万人という報告がありました。2,000万人の堅持に概ね近い結果となりました。

過去のピークが2003年の2,200万人で、この時と比較すると現状とどのようなギャップがあるかなど色々な議論があった中で、まず、行うべきことは観光客を増やすべきである。

そのためには2,000万人の堅持ではなく、さらに高みの目標感を持ち取り組んでいくべきという話になりました。

その中で、一つの重要な要素としてインバウンドの領域に対する取り組みを実行できるのではないかとということで議論を進めました。

最後に、目標感の捉え方ですが、期間的にはオリンピックという1つの契機がありますが、それを目標にするのではなく、

その先にさらに成長線を持って行ける様な仕組みと目標を立てることが重要ではないかということで、本日の議論は終えております。

目標値は、2,200万人なのか、2,500万人なのかわかりませんが、高い目標値設定をし、それに伴う施策を考えていくべきで、その一例として駐車場の問題、パークアンドライドの推進なども出ましたので、これからさらに掘り下げられるかなと思います。

ファシリテーター

ありがとうございました。

細かい内容は、後ほどの意見交換で補足していただければと思います。次に暮らしの報告をお願いします。

委員

前回出ました、教育、交通、生活には買い物や医療福祉なども含めますが、それと住宅問題の4つの課題について、さらに掘り下げて意見交換しました。

暮らしは、短期で良くなるものではなく、長期的に考えて行かなければならない部分もあり、今回は具体的な提案を出すところまでは行きませんでした。

まず、教育問題ですが、以前の町民会議でも発言がありましたが、箱根町は基礎学力という点では、それほど高い水準ではない部分があるので、何とか箱根の教育を充実させ基礎学力がアップすることにより若い世代、これから子育てする世代が箱根に多く集まる要因の一つになるのではないかとということで、教育問題が大きなポイントになるという話が出ました。

その中でIターンの方、町外から来た人生経験豊富な方や様々な分野のスペシャリストであった方が箱根町にいる筈なので、そういった方に寺子屋のような形で子供達を集めて、色々な経験を話してもらうことで、子供の学習意欲の動機付けに繋がるのではないかと意見が出ました。さらに高齢化が進んでいる中で、元気なお年寄りが教育に関わることで生きがいを持つことも、もう1つのポイントだと思います。

また、箱根の教育に独自性、例えば英語教育に特化して成功している小田原市の学校もあるようなので、そのような事例も参考にしながら、箱根の教育をより良いものにして、定住化に繋がれば良いという意見がありました。

2番目の交通関係ですが、やはり、渋滞問題が提起されています。イメージダウンに繋がっている部分もあり、これは箱根

町全体、観光面だけでなく、生活上もマイナス面が大きいので、それをある程度、具体的に把握する必要があるのではないかと。

例えば、渋滞により経済損失がどのくらいあるのか、具体的な金額が出せれば、それを公表し、住民・事業者それぞれ立場が異なりますが、その損失を減らすために何ができるか、協力する我慢することを真剣に考える切っ掛けが必要という意見もありました。

インフラ整備についても、南箱道路を整備しているから良いというのではなく交通を取り巻く環境も刻々と変わっており、災害時の備えも必要なので、次に何が必要か考えていかなければならないという意見もありました。

3番目の生活については、高齢者が非常に増えており、様々な問題が提起されています。

その中で、ボランティア活動を充実させることにより、お年寄りが安心して住める町というのも、この町の将来のために必要ではないかという意見もありました。

最後に4番目の住宅ですが、今、町が取り組んでいる空き家バンクの取組状況や問い合わせ状況などを聞き、これも定住化の起爆剤になるのではないかと話がありました。

ただし、民泊目的の空き家バンクの利用などもあり得ることなので、プラス面もマイナスの面もあるという意見もありました。

特に具体的にこうした方が良いというところまでは、議論が進みませんでした。それぞれの立場で抱えている問題点は出ましたので、この中から、何か具体的に出来ることを提案していければ良いというところで今回は終了しました。

ファシリテーター

ありがとうございました。

各グループの代表者から報告していただきましたが、私は、暮らしグループに参加しました。かなり多岐にわたる意見が出ており、ポイントをうまく整理して発言されたと思います。

各論は、色々出ていますが、恐らく説明で取り上げた項目が、4つの課題の中で比較的、今後の焦点になる部分ではないかと思いました。

それでは、全体で議論したいと思いますが、進め方は、しつこく毎回、使わせて頂きますが、本日の資料1にあります杉山委員作成の図をもとに議論していることを、改めて、皆さん念頭に置いた上で、発言をお願いします。

発端が行財政改革のうち特に財源問題ですが、それだけではなく、観光、暮らし両方考えていく必要がある中で、最終的な提案にどのように持っていくか、こういう構造を踏まえながら、中目標、あるいは、個別の論点を挙げていただいておりますので、そのようなことも踏まえながら意見をいただきたいと思えます。

また、別グループの参加者から、意見や補足があれば、今は自由に意見交換したいと思えますので発言をお願いします。

アドバイザー

私は、観光グループに参加しましたが、前回と同様に暮らしグループの交通関係の課題は、観光グループでも、当然、出ています。

財源問題を少し棚に上げて議論した中では、湯本の手前の箱根町と小田原市の境に大きな駐車場を整備し、そこからパークアンドライドを駐車券と周遊券を付けた形で行ってはどうか。

そのような構想があれば、生活上の渋滞問題も解消され、箱根町でこれから観光する方の行き渋滞緩和にも効果があるので日帰りの観光客は、麓の駐車場で停めていただくような施策が出来れば、観光という産業及び生活そのものにも効果があるので両方に共通する課題かと思えます。

ファシリテーター

実は、暮らしのグループでも道路に関する議論は、かなり出ましたので、今のアドバイザーの発言に関連して道路、渋滞関係で何か発言がありましたらお願いします。

委員

大涌谷で何年か前にパークアンドライドの実験を行っているとします。県が実施したかと思えますが、その成果、結果が、どのようなものであったか、分かれば教えてください。

総務部長

正確に把握している訳ではないので、不確かな部分もあるかもしれませんが、大涌谷の駐車場に向かうアクセス道路は、何が問題かという駐車待ちの車と路線バスのように駐車場を利用しない車が混在していることです。

駐車待ちの車は、現状では手の打ちようが無い部分があるので根本的な対策を考える必要がありますが、路線バスは、スムーズに交通させることができるのではないかとということで上りを2車線、下り1車線、合計3車線で社会実験という形で実施したと記憶しています。

結果ですが、効果はあったと私は承知をしています。

ただし、2車線しかない道路を無理やり3車線にしましたのでこのままでは、道路交通安全上、実施できない。そうすると道路の拡幅が必要となりますが、自然公園法の関係で拡幅が厳しいという形でまとめられていたと記憶しています。

ファシリテーター

パークアンドライドの実証実験は、県が実施し、何らかの報告書があるということですね。他にはいかがでしょうか。道路に限らない意見でも構いませんのでお願いします。

観光の方は、観光客増、しかもインバウンドをターゲットという事で、本日、比較的明確な方向性を打ち出していただいたと思います。

暮らしの方は、確かに多岐にわたるので何かに絞ることは難しい状況ですが、その中でどのような方向性で絞って行けばよいか、あるいはどのような方向性を出していけばよいか、そのような意見もお願いします。

委員

暮らしグループに参加しましたが、今回、教育、交通、生活、住宅という課題が出て、委員の皆さんは、各団体から選ばれて町民会議に参加しているので、この4つを分けて考えてしまうと難しいと思います。

私は教育を何とかしたいという考えですし、老人会からの推薦であれば、高齢者のために何とかしたいという気持ちが強いと思いますので、これらを分けて考えると最終的に意見がまとまらない可能性があります。

実際は、全て繋がっていると思いますので、うまく繋げて成果を上げたいと思いますが、そのためにどうすれば良いかという案はなく、非常に難しいと感じています。

ファシリテーター

暮らしの4つの課題を、何かうまく連結するような1つの事項ですね、論理なのか方針なのか何か一貫した考えの中で4つの課題を論じることができればということですね。

委員

今の発言は、私もそのとおりだと思います。

根本は財政の話なので本当はお金を捻出するためにどうすべきかが1番に来なければならないと思いますが、なかなか難しい現状があります。

民生費の扶助費との兼ね合いから考えると、1番最初の議論

で人口を増やしたほうが良いのか、実は少ない方が良いのではないかという議論もあったかと思います。

私が、今、感じたのは、出て行く人を減らす、入ってくる人を増やすことが最終的な結論になるのかなと思いました。シンプルに行くと、人口を増やすために、交通では、このようなことを行うべきだという議論になっているのではないかと思います。皆さんそのような認識で良いでしょうか。

ファシリテーター

人口を維持ないし増加するという切り口での課題であり、今後の方向性ということですね。

今の発言からヒントをいただいたように、人口問題というものが、やっぱり、今後、箱根町にとっては、じわじわと影響が出てくると思いますので、そこをまず押さえたいうえで各課題を考えていくとぶれないということは、確かにあると思います。

教育を良くすれば、若い世代が来る。あるいは他所に行かずに育った子供達が地域に根付いてくれる。生活を良くすれば、やっぱり人が残ってくれる、あるいは来てくれる。交通も渋滞がなく、移動の便が良くなればという形で整理すると良いのではないかということですね。

委員

老人会の立場から言いますと高齢者や生活の厳しい方々に対する生活支援団体の育成と個人ボランティアの醸成が必要ではないかと思います。

ファシリテーター

ありがとうございます。

それも、今回、1つのポイントとして出てくるだろうと思います。

今の発言は、人口を増やすことには繋がらないかもしれませんが、暮らしている方が一定の利便性を持って生活できるようにするという事ですね。

この分野では、地域住民の方が主体となって対応できる事もあると思いますので、この課題に対し町民や事業者として行えることがあるというような発言もお願いできればと思います。

委員

暮らしグループの意見交換で感じましたが、4つの課題の中で、交通や住宅、生活は、ある程度、箱根町の地理的または自然環境保全などの現状を踏まえると、箱根町のセールスポイントとしてアピールするのは難しいので、箱根に転居したいとい

う魅力の1つとして人を呼ぶことができるのは教育かなと思います。

先ほどの小田原市の学校の例もありますが、箱根に住むと公立でありながらこのような教育をしてくれる。子供がこのような能力を伸ばせるということをアピールできると家族で引っ越してくる可能性があります。

このため、4つの課題の中では、行政が主体となって力を注ぐべきものは、教育部分はやりがいがあるのかなと思います。

交通にしても、より民間の力を借りないと難しい部分もありますし、生活支援などはボランティアの方の力を借りないと難しい部分もあります。住宅問題についても民間所有者の力を借りないと難しい面があると思います。教育だけは、行政の力だけでも何とかできるかなという部分があると思います。

ファシリテーター

暮らしグループの課題の中では、教育をやや優先的に取り扱ってはどうかという意見ですね。

委員

私の住んでいる周りを見ていくと、子育てに関して不安があるので小田原などに住んでいる方がいますので教育問題はかなり重要だと思います。

これまでの議論の中で、箱根の場合は、やはり観光に力を入れていかなければ、将来的には、生き残れないと思います。

場合により三島市や小田原市から通勤する方がさらに増えるかもしれませんが、それでも観光に力を入れなければ、将来的に衰退してしまうのではないかと思います。

今後の議論では、ある程度絞って、観光を良くするためには、交通も必要だし、教育にしても同じことだと思いますので、その辺を重要視して何か考えていければよいと思います。

ファシリテーター

ありがとうございます。

暮らしの方の課題では、やはり教育がかなり重要ではないか。観光ももう1つの課題である。教育、観光というものを中心に、議論してはどうかということですね。

委員

追加で教育に関してですが、私の親戚が住んでいるところでは、山村留学を行っています。長野県の方ですが、豊かな環境なのでそこに子供たちが留学という形で来ています。

現在も実施しているか分かりませんが、結構、子供達が来て

いて、そのような一時的に来てもらうことから始めることも、教育は可能だと思います。

ファシリテーター

ありがとうございます。

これまでの議論では、観光と教育をある意味この町民会議の2つの柱に少し格上げしてはどうかというご意見だと思います。

その場合、高齢者や子育て、生活と言った面は、前面から退くと見えますが、恐らくそれらについても、うまく取り込んで行くことは可能だと思います。

今後の議論の方向性として観光・教育をメインとし、それを深く検討しながら、他の問題も併せて考えていくというやり方があると思います。

その辺りは異論もあると思いますので、色々な方からご意見いただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

私は賛成ですが、交通問題について、前回、他の委員も発言していましたが、事業者はどのように考えているのか、話を聞かないとわからない部分もあると思います。

観光、暮らし両方に共通している項目なので提案ですが、証人喚問ではなく、実際にどのように考えているのか、例えば、渋滞は由々しきことだと思っているとか、それを少しでも減らすために今、このようなことに取り組んでいるなど少し話を伺えればと思います。

前回、町で検討するという話がありましたが、可能であれば、それが出来ると良いと思います。

ファシリテーター

その辺りはいかがでしょうか。

企画課長

事務局サイドでは、交通事業者も沢山あるので、どの事業者に来てもらうか、また、呼んだ事業者に非難が集中するような状況になる恐れがあること。さらに、そのような時間を取ることができるのか、また、今回は、いずれにしても時間的に間に合わないことも考え、保留にさせていただきましたので、次回、改めて検討させてください。

ファシリテーター

役場の立場、事情もあると思います。

そこで、例えばこの場に来ていただかなくても、役場でヒア

	<p>リングなど事情を少し詳しく聞いて、町民会議にフィードバックをしていただくことは可能でしょうか。</p>
企画課長	<p>ヒアリングの内容や手法も検討したいと思います。</p> <p>ただし、例えば渋滞に関しては、事業者さんも定時運行ができなくて非常に困っているという話も聞きますので、抱えている問題は一緒かなという印象はあります</p>
ファシリテーター	<p>運命共同体という側面はあると思いますので少しその辺り、うまく働きかけをお願いできればと思います。</p>
委員	<p>先ほど観光グループに参加しましたが、バスの件でお願いがあります。キャリーバックを持って乗る頻度が多いバス停で何か対策ができないか程度のことは聞いて欲しいと思います。</p> <p>先ほど石川課長も参加して色々な意見が出たことを聞いていると思います。例えばバスの乗降時にキャリーバックを積み込むのが遅いから渋滞が出来るのか、それとも現金払いで時間がかかり渋滞ができるのかなど、交通事業者として渋滞の原因として認識していることを聞いて欲しいと思います。</p>
委員	<p>企画課長の立場は、よく分かりますが、何社もあるといいながら2社しかないと言っている皆さん思いながら聞いていたと思います。</p> <p>町民会議の委員も団体ごとに立場は異なるのは、皆さん共通した認識なので、交通問題も様々なものがあると思います。</p> <p>キャリーケースの件や渋滞を減らすために何か良い方策がないかの議論ができれば良いので、勉強会でも良いですし、代表して何人か出向いてヒアリングを行い、結果を報告する形でも良いと思います。</p> <p>町のみでヒアリングし、良い回答を頂いても委員に報告しきれない部分もあるかと思っていますので、可能であれば委員も一緒にヒアリングを行えると良いと思います。</p>
企画課長	<p>色々提案をいただきましたので、前向きに検討したいと思います。</p>
ファシリテーター	<p>よろしく申し上げます。</p> <p>そろそろ終了時間になりますが、今後の予定を考えた場合、最初にも申し上げましたが次回は7月14日になります。</p>

次回は、行財政改革についてと取りまとめの方法についてですが、いずれにしても全体で議論を進めることとなります。

本日、観光・暮らし、それぞれ何らかの方向性が出てきたように思いますが、まだ、具体的な提案にいたるレベルではないと思います。

このため、各グループ参加した方を中心に7月14日まで、あるいはその後でも結構ですので、勉強会等は、是非、自主的に行って頂きたいと思いますが、勉強会の有無に関わらず、意見を取りまとめる必要があります。

本日、出された課題を意見にまとめていくかですが、先ほど出たのが、観光と教育を少し重視する方向性で議論を行うのか。この他、道路、交通の問題は重要であるということだと思います。その辺りを踏まえながら、今後のまとめ方についてもご意見をいただければと思います。

委員

色々意見が出ましたが、この町民会議の当初の目的を考えると、町の財政の健全化に向けてどうするかですよね。

この場合、観光グループは良いと思いますが、一方、暮らしグループの方は教育だけでは、少し問題があるのではないかと思います。

やはり教育だけでは、箱根町も高齢化率37%ぐらいですか高齢者に関しても入れないと非常に難しいと思います。

教育、交通、生活、これらへの対策が、税収に結びつくか、健全化に結びつくか少し関連が薄い部分かもしれませんが、どちらかという高齢者は短期的な対策で、教育は長期的な対策になるかと思いますが、そのようなことも考えると、一気に対象を絞ってしまうと難しいと思います。

委員

杉山委員が作成した図の最終提言の大目標では、「健全な財務体質のもと豊かなまちづくりはどのようにしたらできるかの提言」となっています。

先ほど生活の方で教育問題に絞ってということですが、公共が担う部分では教育が良いのではないかという話で、だからといって、他の課題に対する提案をしないわけではなく、その他にも提案に当然、盛り込む方向で考えていかなければならないと思います。

ファシリテーター

恐らく、今回皆さんに議論していただいた課題と、何らかの

解決の方向性はできる限り、入れるべきだと思いますし、入れたいと考えています。その中で、少しメリハリをつけた作り方ですね、それが可能かどうかということになると思います。

これまでの議論を踏まえた提案ですが観光と暮らしで、取りまとめに向けて大まかなイメージ、ラフなメモ程度で結構ですので作成していただくことは可能でしょうか。

アドバイザー

参考ですが経済学や財政学では、このようなストーリーになると思います。

事の発端は、固定資産税の超過課税を導入で、その原因は、税収に占める固定資産税の割合が非常に高いという特徴があるので主に地価の下落となります。

下落した地価を上げるためには、箱根町の基幹産業である観光を魅力あるものにしなければいけない。観光を魅力あるものにするための取組みを行い魅力があると地価が上昇し町の財政が回復してくる。財政が回復してくると、これまで住民サービスを削ってきた部分を改善することができ生活が良くなることで町全体が良くなる。

それが全国に知れ渡れば魅力ある町となり I ターン・U ターンが増加する。最終的には恐らくこのようなストーリーになると思いますので、経済が良くなって、税収が上がって、生活を支援することが十分できる。このようなことだと思います。

ファシリテーター

はい、ありがとうございます。

アドバイザーが発言された構図を踏まえながら、各課題について少し方向性を考えて行くと良いと思いますが、町民会議の性格上、委員の皆さんで考えていただいて、最終的に取りまとめの際には、私も協力したいと思いますが、案の作成は可能でしょうか。

私から作成する委員は指名させていただきますが、イメージは、A4の1枚程度で取りまとめにむけた方向性を箇条書きでまとめていただければと思います。

7月14日の次回の町民会議時に議論のたたき台になるようなものがあつた方が、良いと思いますので、作成途中で相談したいことがあれば、ファシリテーター、アドバイザーに連絡いただければ相談に乗ります。申し訳ありませんがよろしく願いいたします。

本日の議題は、終了したいと思いますが、最後に本日の意見

	交換を踏まえて、町に情報提供して欲しい項目について、本日、出ましたのはパークアンドライドの結果と交通事業者へのヒアリングですが、それ以外にありましたらお願いします。
委員	暮らしの方で教育が大きなポイントなると思いますが、本日の勉強会でも出ましたが小田原市で英語に特化した片浦小学校が、非常に独自性を持って他所から入学したいという希望が来ているという例があるそうですので、その辺の具体的な内容がわかれば、調べて欲しいと思います。
委員	自然公園法の規制がありますが、先ほどの大涌谷のように道路の拡幅は中々難しいという中で森林の樹種転換は可能か調べていただきたいと思います。
ファシリテーター	これ以外に何かありましたら、直接、事務局に連絡いただければと思います。 それでは、時間になりましたので、議題にその他とありますが、事務局から、何かありましたらお願いしたいと思います。
事務局	次回の開催方法ですが、今回と同様に、事前に勉強会、その後、町民会議という形でよろしいでしょうか。
委員	今日、勉強会を開催して良かったのが、傍聴に来られた方からも意見を聞いたことです。我々の意見を客観的に聞いたうえでの発言は参考になりましたので、次回も行った方が良いと思います。
委員	勉強会でマイクがないこともあり、皆さんの本音の発言が沢山あり、そこにヒントがあるような気がしますので、是非、お願いしたいと思います。
ファシリテーター	それでは、本日と同じタイムスケジュールということでお願いします。
	3 閉会
企画課長	本日は、お忙しいところ、長時間にわたりましてご議論いた

だきましてありがとうございました。特に勉強会から出席された委員さんは長時間にわたり、誠にありがとうございます。

次回は3週間後ということで、短いスパンで申し訳ありませんがよろしく願いいたします。これで第2回行財政運営を考える町民会議を閉会させていただきます。

長時間にわたりありがとうございました。

また、引き続きよろしく願いいたします。